

高崎観光協会 会報

縁起のいいまち

高崎

春号
Spring
VOL.130

2015

「縁起のいいまち高崎」高崎観光協会会報(春号) 第130号 平成27年4月1日発行

倉賀野

内陸に見た港町の幻影

関八州最大級の結接点として繁栄した倉賀野河岸

街道に見られる風景



倉賀野 内陸に見た港町の幻影

関八州最大級の結接点として繁栄した倉賀野河岸^{くらがのかし}



JR 高崎線・高崎駅の一つ手前の倉賀野駅下車。倉賀野町は江戸日本橋から数えて12番目の中山道の宿場があったところ。日光例幣使街道^{にっこうれいへいしかい}の分岐点でもあり、なにより利根川水系最上流の倉賀野河岸が開かれたことにより、およそ230年にわたって関八州最大級の集散地として栄華を誇った地域である。

内陸上州にあって、江戸前的大海原とダイレクトにつながり、かすかに潮の香がもたらされた“港町”。その繁栄の足跡と港町を証明するものを求めて散策してみた。

音楽喫茶 CLART (クラート)・蔵人
高崎市倉賀野町 1602-1 電話：027-346-2363
■営業時間：金・土・日・月 PM13:00~20:00
NHK カルチャージャズ教室を開催

※この地域の詳しい地図は、高崎観光協会のホームページでご覧になれます。
<http://www.takasaka-kankouyukai.or.jp/>



港町の路地裏にありそうな音楽スペース

一三〇年前に建てられた蔵

天井にはむき出しの黒い梁、白熱灯に染まる漆喰の壁。聖母子像に古代ローマ帝国皇帝アウグストゥス像。古い蔵を改築した空間に、和製の品はもちろん、西洋のアンティークがよく似合う。こだわった音響機器から流れてくる繊細にしてクリアなジャズの調べ。すべての要素が心寛げる空間を構成している。

そこに千両役者の登場である。世界の波止場を巡り心の琴線に触れた美術品や工芸品を収集してきた船乗りがようやく終の棲家を見つけ、気入りの物に囲まれて暮らす。異国の街角で出会いそうな風貌が、そんなストーリーを連想させる根岸蔵人さん。奥様とここで音楽喫茶『CLART (クラート)』を営んでいる。

この蔵は、一八七八年(明治一一)のパリ万博の頃に建てられたもの。パリ万博といえば、フランス大統領の要請で日本の古物が多く出展され、包み紙などに使われた浮世絵がもたらした独特の空間感覚や色彩感覚がゴッホやモネに与えた影響はよく知られている。西洋と東洋が出会って起こる化学反応。港町はいつもその入口だ。

倉賀野の同級生

山田かまち + 氷室京介・松井常松 (BOWWY)

「このような作品は時代環境と制作者の才能や心境が一致しないと二度と生まれてこないのではないか」。これは山田かまちが一六歳のとき、小3の時の担任・竹内先生に連れて行ってもらった「日本の山水画展」を鑑賞後に話した言葉だ。見事な歴史観に先生も思わず襟を正したという。

山田かまちは一九六〇年に高崎で生まれ倉賀野で育った。一七歳の夏、エレキギターの練習中の事故で短い生涯を閉じるも、非凡な表現力から生まれた数々の詩やデッサン、水彩画などが遺作展で発表されると、「かまち現象」として一大センセーションを巻き起こした。

かまちは倉賀野小・中学校の同級生に、オサム君こと氷室京介とマツイ君こと松井恒松(常松)がいた。二人は一九八一年に結成したロックバンド BOWWY のボーカリストとベーシスト。八〇年代の日本のロックシーンをリードしてきたが、八七年、人気絶頂期の中で解散。現在はソロ活動を続けている。

「小さい頃から自分は絵が好きだったが、他に天才的うまくいって、いつも二番だった。小学校から一緒に、そいつには絶対かなわなかった」と、氷室はかまちについて語っている。また、かまちは訃報に駆け付け、母・千鶴子さんに「かまち君はハードロックでした」と告げた。松井とは、かまちがエレキギターを購入後、松井の家で一緒に練習した仲だった。

倉賀野で彼らが共に過ごした時間は「環境や才能、心境の一致」として、その未来に何らかの化学反応を引き起こしたのではなかったか――。

※「高崎市山田かまち美術館」(片岡町)が建てられている。



130年前に建てられた蔵を改築した『CLART (クラート)』は、多国籍な情緒を醸し出す。誰にとっても開かれたもてなしの場所になっている。



明治期の蔵造り商家



間魔堂・常夜灯・道しるべ

倉賀野宿の東端に目を転じると、中山道と日光例幣使街道との追分に間魔堂がある。その傍らには文化11年(1814)に建立された常夜灯と、「従是右江戸道、左日光道」と刻まれた道しるべがある。現在お堂は再建中。間魔堂を飛び地境内とする九品寺に、間魔さまが仮住まいしているというので訪ねてみた。九品寺は、延徳3年(1491)に開基した古いお寺。カラフルで意外にハンサムな間魔さまの背後には、普段は庫裡に仕舞われているという阿弥陀如来像が鎮座していた。そのため江戸時代までは阿弥陀堂と呼ばれていたという。

高瀬舟が行き交った倉賀野河岸。隆盛を極めた河岸問屋

江戸幕府の支配政策で盛んになった水運

内陸に深く入り込んだ倉賀野河岸が大海に出会う下総国の行徳河岸に直結し、元禄時代の最盛期には大小一五〇隻余りの舟が所属した。二、〇〇〇余隻が利根川、烏川、江戸川で白帆に風をはらませて行き来したという。

今も街道に残る宿場情緒

九軒の河岸問屋が倉賀野河岸に君臨し、名主、年寄として倉賀野宿の頂点に立った。その富と力は小大名や小旗本をしのぐものであった。栄華と繁栄に酔った町人の中には宵越しの金を持たない気風が生まれ、お祭り騒ぎが好きな街道の人種が育ったのは当然で、それが宿場の繁栄につながっていた。

幕府の支配政策によって江戸と領国に城を持つ二重生活を強いられた大名は、領国の米の一部を江戸屋敷で使用し、それ以外を米問屋に売ってお家の掛りの一切を賄っていた。そのため高崎藩をはじめ五〇余大名がことあるごとに倉賀野河岸を利用した。

明治一七年(一八八五)、東京高崎間の鉄道開通により倉賀野河岸は終局を迎えた。烏川に架かる共栄橋のたもとに「倉賀野河岸跡」の碑が建つ。そこから北に向かつて二〇〇メートルほど歩くと旧中山道に出る。

米の他に、西上州や信州方面からのたばこ、麻、綿、生糸、味噌、醤油、木材、織物、雑穀などが「下り荷」として、また「上り荷」としては干し魚、油、茶、塩、砂糖、小間物、陶器類などが運ばれ、下り舟は三〜四日、上り舟一七日〜一八日ほどを要したという。

倉賀野宿は、街道の長さ約一・二キロメートルの間に、上町、中町、下町があり、この三町が一〇日間ずつ交替で、人馬の継立(宿場)ごとに馬を乗り継ぎ、人夫を新しく雇うことや助郷へのふれ出し、駄賃の支



太鼓橋跡



倉賀野町の総鎮守
倉賀野神社



脇本陣跡

払いを行う「伝馬」を受け持った。

中町の信号から西側のスーパー駐車場は、大名や公家が宿泊した「本陣跡」で、代々、河岸問屋の勅使河原家が世襲した。その先も河岸問屋だった須賀家が「脇本陣」を務め、建物が再建されている。連子格子の主屋と付属屋（番人小屋）が目を引き、建物西側には漆喰の壁が袖のように張り出した「ウダツ」がある。「ウダツがあがらない」ということわざとは真逆で、倉賀野河岸の大問屋の繁栄を物語っている。

遊女の気配が残る

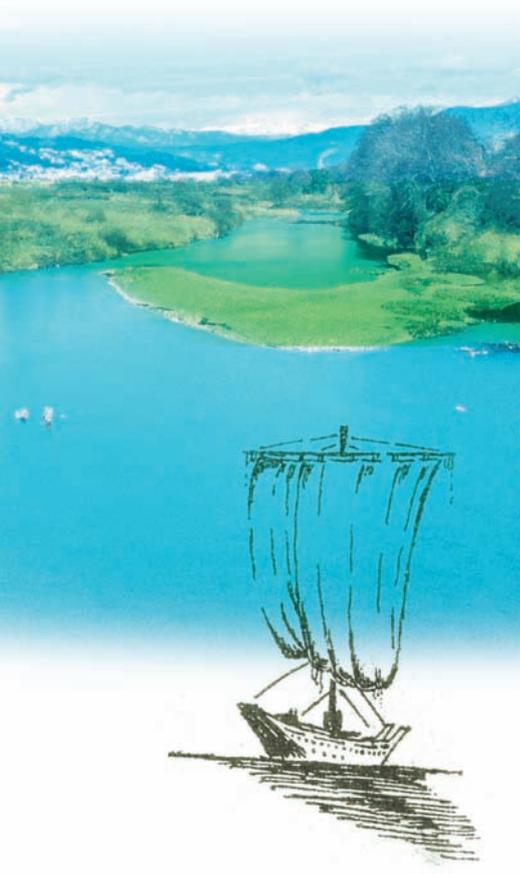
南北に走る不思議な道

御殿様のお膝元・高崎宿の取り締まりが厳しかった分、倉賀野宿は旅人が羽を伸ばして艶めく場所が充実していたようだ。享和三年（一八〇三）の倉賀野には四五三軒のところに六四軒の旅籠屋があり、その大半が飯盛女のいる女郎屋兼業。信州や越後から借金肩に連れてこられ、一生を下積みで終わった女たちの墓碑が、九品寺をはじめ町内の寺社に残されている。

旧中山道の中町と下町の境に、三歩も歩けば渡り終えてしまう橋があ

る。ここは昔、中山道六九次の内に二つあった名橋の一つといわれた太鼓橋の跡。飯盛女たちが抛出した二百両で造られたというが残念ながら今はその姿を留めていない。太鼓橋から下を流れる川に小銭を投げ入れると、その夜はお客にあふれないというのが、彼女たちのジンクスだったという。

現在、その川は舗装道になっている。ここはもともと倉賀野城の土居堀だったところに、用水路が長野堰から南北に引かれ、人々が洗いや魚獲りをしたという生活に密着した小川だった。今はそこに蓋がされ道路になっている。家々を見上げるような目線で細くくねった道を歩くと、軒先を自由に闊歩する猫になった気分、街道筋とは違った倉賀野の素顔が見えてくる。



丁子堂 房右衛門の河岸最中

1903年（明治36）創業の和菓子専門店「丁子堂房右衛門」の「河岸最中」は、倉賀野河岸を行き来した船の通行許可書「船鑑札」をモチーフにしている。甘さ控えめで口どけさわやか。あずき・ゆず・塩の三種の味をご賞味あれ。

高崎市倉賀野町2006 電話：027-346-2321

■営業時間 営業時間 9:00~18:30

■定休日 木曜

02

4/29
(水・祝)

第27回たかさき スプリングフェスティバル

音楽センター前広場
市庁舎前広場、他



平成と共にスタートした「たかさきスプリングフェスティバル」は今年で27回を迎え、高崎の春を代表する「市民のための市民のまつり」として定着しています。

音楽センター前広場で午前10時からオープニングを行い、花鉢・苗木の配布を行う緑花祭、自慢の伝統芸能を披露する市民芸能祭へと続きます。音楽センター東側では新緑の中で琴の調べを聴きながらお茶を楽しむ三曲・野点コーナーと福祉団体を中心にした青空てんと村を開催しています。実行委員会が担当する「里山ひろば」は昔懐かしい木工細工や竹馬作りなど里山の楽しさでいっぱいです。市庁舎前広場ではフリーマーケット・食道楽・軽音楽とこちらも盛りだくさんです。

今年は、昨年のゆるキャラグランプリで優勝したぐんまちゃんや高崎市のゆるキャラが参加し、各部門を盛り上げますので是非！遊びにきてください。また、恒例になりました「ひたちなか市・銚子市・柏崎市の観光物産市」も開催しますので美味しいものをゲットしてください。「春に集う」をテーマに親しまれてきたこのフェスティバルは当日延べ2万人もの方々が来場し、暖かな春の一日を楽しみます。実行委員は全員市民ボランティアで、学生を含めると約250名で運営しています。スタッフ一同、心より皆様のご来場をお待ち申し上げます。

●お問い合わせ
たかさきスプリングフェスティバル実行委員会事務局
TEL.027-347-1686

01

4/25・26
(土) (日)

高崎商都博覧会 2015

スズラン高崎店・高崎高島屋
高崎モントレー・ヤマダ電機 LABI 1 高崎

●抽選期間
4月25(土)～26(日)
午前10時～午後7時
(スタンプ押印は午後6時45分まで)

豪華景品が当たる
大抽選会



中心市街地の大型店が連携し、4月25日(土)～26日(日)の期間、第7回「高崎商都博覧会 2015」が開催されます。

このイベントは、大型店4店(スズラン高崎店・高崎高島屋・高崎モントレー・ヤマダ電機 LABI 1 高崎)の共同販促企画で、催事やポイント還元セールなど趣向を凝らした内容が目白押しです。

2店舗以上で買い物された方が参加できる「高崎まちなか4店ぐるりんスタンプ」大抽選会では、総額250万円の豪華景品に加え、各店舗独自の「大型店4店賞」もご用意しております。

また、まちなか商店街が連携し、多彩なイベントを開催するほか、「高崎おとまちプロジェクト」による音楽イベントも同時開催する予定です。

皆様のご来場を心よりお待ちしております。

●お問い合わせ：高崎商工会議所 商業振興課 TEL.027-361-5171

5/16・17
(土) (日)

第3回榛名山ヒルクライムin 高崎

高崎市榛名体育館、榛名湖畔



群馬の名峰榛名山で、第3回ヒルクライム大会を開催します。

16日は、榛名湖畔で300人の参加選手によるタイムトライアルレースを午後2時30分スタートで開催します。また榛名体育館ではウェルカムイベントを午前11時から開会します。地元中学生の吹奏楽の演奏やプロ自転車競技選手らのトークショーなどのほか、地元商工会やJAなどの物産ブースが出店しますので、お楽しみに。

17日のヒルクライムレースは、午前6時50分に大森神社前で開会式を行い、本市内の小学生がうちならす号砲で7時からレーススタートします。午前11時30分からは榛名体育館で表彰式の予定です。

※観戦は交通規制前にコース沿線のポイントへお越しください。

※当日は交通規制があります。ご協力をお願いします。

●お問い合わせ：榛名山ヒルクライムin 高崎 実行委員会 TEL.027-374-6715

高 崎 市 の 春 の イ ベ ン ト

05

6/4～7
(木) (日) 「高崎バル 2015・初夏」を開催
中心市街地の飲食店

●あとバル
8日(月)～30日(火)
中心市街地の飲食店

高崎バル
2015・初夏



高崎中心市街地の飲食店では6月4日(木)～7日(日)にかけて、会社帰りや買い物帰りに「食べ歩き」と「まち歩き」を楽しんでいただく飲食イベント「高崎バル 2015・初夏」を開催いたします。
バルとは、いつでも立ち寄れる気軽なお店という意味で、参加店がお店の特徴を生かしたワンドリンク・ワンメニューのお得な「バルメニュー」を用意し、お客様の来店をお待ちしております。
7回目の開催となった昨秋の開催では、和食・洋食・中華やイタリアン、カフェやバーなど、バラエティーに富んだ76店舗が参加し、4日間で延べ7千人近いお客様で賑わい、回を重ねるごとに参加者が増えてきております。
昨年好評だった購入したバルチケットからインターネットで応募できる豪華プレゼントキャンペーンも実施予定です。ぜひご参加ください。
「高崎バル 2015・初夏」の参加店舗並びに各店舗のバルメニュー等の情報は、ガイドマップのご案内や高崎商工会議所のホームページで随時更新して、ご案内しておりますので、ぜひこの機会にまちなかの「食べ歩き」と「まち歩き」をあわせてお楽しみください。

●お問い合わせ：高崎商工会議所・企画情報課
TEL.027-361-5171

03

4/29
(水・祝) 第39回県民芸術祭参加事業
群響創立70周年
第36回森とオーケストラ

入場無料

群馬の森大芝生広場特設ステージ
(野外演奏、雨天中止)
12時開演(展示・体験ブースは10時より)

●演奏：群馬交響楽団



群馬交響楽団は、戦後の暗い沈んだ時代を音楽で復興させようと「高崎市民オーケストラ」として創立された、日本初の市民楽団です。「森とオーケストラ」は、その高崎の誇りである音楽文化が、市民の暮らしの中により身近な存在となることを目指して行われてきました。今回で36回目を迎えます。群馬交響楽団による無料野外コンサートを通して高崎の音楽文化を体感してください。

群響のメンバーとふれあえる企画、「楽器に触れよう」コーナーもご用意しています。楽器に触れて音が出る楽しさを感じてください。

「あなたもメイ指揮者」コーナーでは群馬交響楽団の指揮者になっていただけの方を、森とオーケストラホームページにて事前に1名募集しています。また、会場で高崎音楽文化クエスト(クイズラリー)に参加していただいた方には、抽選券を配布します。当日もメイ指揮者になれるチャンスがありますので、ぜひご参加ください。

■会場周辺の駐車場には限りがあります。公共交通機関をご利用ください。
(高崎駅東口、高崎市総合卸売市場より無料のシャトルバスを運行予定)

詳しくは森とオーケストラホームページ <http://morioke.com/> をご覧ください。

●お問い合わせ：公益社団法人高崎青年会議所内
森とオーケストラ実行委員会事務局
TEL.027-361-7604

06

人情
の

ようこそ高崎人情市

平成27年4月26日(日) (午前8時～午後3時) ※会場：もてなし広場
平成27年5月24日(日) (午前8時～午後3時) ※会場：もてなし広場
平成27年6月28日(日) (午前8時～午後3時) ※会場：もてなし広場

●お問い合わせ：事務局 NPO 法人高崎やる気堂 (高崎市剣崎町 1348-1)
TEL.027-343-5130 FAX 027-340-7067
<http://ninjou.gunmablog.net/>



04



横浜銀行高崎支店

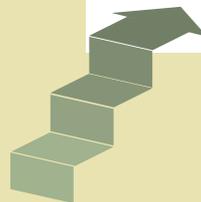
群馬県で初めての銀行



茂木惣兵衛が設立した銀行は横浜銀行に統合され、現在は連雀町に移転。九蔵町のレンガ塀が往時を伝える



江戸末期、高崎に生まれた丁稚の少年は、開港まもない横浜で名を上げ、後に「西の伊藤忠兵衛、東の茂木惣兵衛」と言われる豪商となった。



横浜の豪商茂木惣兵衛を生んだ高崎

●横浜で名を上げた茂木惣兵衛

茂木惣兵衛は、文政10年（1827）に高崎の古着商に生まれた。12歳で呉服屋に奉公し、開港間もない横浜で生糸貿易商として才覚を発揮し、野澤屋惣兵衛と名乗って頭角を現した。

生糸は日本の外貨獲得のための重要な輸出品で、各地から進取の精神にあふれた商人が横浜に集まり、外国商社が立ち並ぶと、寒村だった横浜は一変した。横浜にいち早く目をつけたのは上州商人の中居屋重兵衛で「走り屋」と呼ばれる冒険的な商売だったが、日本の生糸を世界市場に売り込む先鞭となった。

生糸は大産地の上州が牛耳るようになり、明治に入ると上州産生糸のシェアは約5割を占めた。一攫千金を狙う海外貿易で生糸商の興亡は激しかったが、惣兵衛の取扱量は横浜随一となり、横浜財界の親分格、原善三郎と並ぶ大富豪として横浜商人の逸物といわれた。

●新しい時代を開いたパイオニア

貿易の主導権はアジアで経験を積んできた外国商人に握られ、為替取引も海外金融機関に独占され、日本の商人の不利益は大きかった。

惣兵衛と原は、国際化に対応したビジネスの必要性を強く感じ、新しい時代のリーダーとして横浜を引っ張った。海外金融機関に対抗するとともに資金調達を円滑にするため、日本で最初の近代的銀行事業とされる横浜為替会社を明治2年（1869）に設立した。この会社は、明治7年に第二国立銀行に改組するが、国立銀行は国の法（当時は条例）に基づく民間銀行のことで、この時に4つの銀行が設立された。第二国立銀行は他の3行と大きく異なり、洋銀券、ドル紙幣の発行を許された国内唯一の銀行で、原善三郎が頭取、惣兵衛は副頭取となった。

●私財を社会に生かした実業家

第二国立銀行頭取の原も群馬に近

い埼玉県神川町の出身で、惣兵衛の他にも群馬出身の横浜商人が株主に名を連ね、群馬と横浜の生糸商人の関係が非常に深く、明治8年に生糸取引の拠点となる高崎に群馬県内初の銀行として高崎支店が九蔵町に開設された。高崎支店はルネッサンス様式の赤レンガの建物が目をひき、群馬の発展に大きく寄与した。

惣兵衛は火事で焼け出された人金を与え、学校や道路に多額の寄付も行い、市民から博愛家と尊敬されたという。惣兵衛の出資で造成された熱海梅園は、皇室へ献上後、熱海市に無償譲渡されている。惣兵衛は66歳で亡くなったが、遺志により葬儀は質素で、貧しい人5千人に米代50銭が配られた。最後まで社会に尽くした実業家であった。惣兵衛の築いた野澤屋の建物は横浜松坂屋に継承された。

第二国立銀行のほか惣兵衛の関わった銀行は合併統合され、昭和32年に「横浜銀行」と改称し、現在は連雀町に高崎支店を置いている。



倉賀野 内陸に見た港町の幻影

関八州最大級の結接点として繁栄した倉賀野河岸

■エリア詳細図

